

表彰

上村昭栄先生藍綬褒章受章
野原俊一先生旭日双光章受章
新・旧琉球大学医学部長・附属病院長

祝賀会
激励会



常任理事 大山 朝賢



左より園子夫人と野原俊一先生、上村昭栄先生、佐藤良也先生、須加原一博先生、村山貞之先生

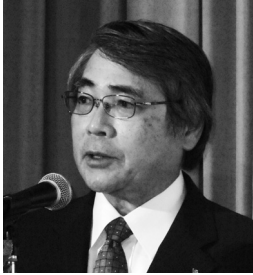
上村病院初代理事長、上村昭栄先生藍綬褒章受章、南部地区医師会の老人保健施設「東風の里」施設長、野原俊一先生旭日双光章受章に対する祝賀会並びに琉球大学医学部長を退官された佐藤良也教授（現同大副学長）、同大医学部長に就任された須加原一博教授（前同大病院長で前沖縄県医師会理事）及び同大病院長に就任された村山貞之教授（沖縄県医師会理事）等の激励会が去った7月13日（水）、ザ・ナハテラス（3階・アダンの間）で同時開催されました。会場は医師会員や病院関係者でうめつくされていました。

始めに主催者を代表して宮城信雄沖縄県医師会会長より祝辞が述べられたあと、上村先生のご

業績を中部地区医師会長で県医師会常任理事の安里哲好先生から、又野原先生のご業績を南部地区医師会長の名嘉勝男先生から披露されました。続いて来賓を代表して宮里達也沖縄県福祉保健部長から祝辞を頂いたあと、宮城信雄県医師会長より上村先生、野原先生へ記念品の贈呈がなされました。それから両先生も含めて佐藤教授、須加原教授及び村山教授に県医師会や地区医師会並びに産婦人医会より花束贈呈が行なわれ、5人の先生方からお礼のご挨拶が述べられました。新垣善一議長の音頭による乾杯のあと懇親会に移りましたが、閉会の時間がせまっても多くの方々が席を立たず、祝賀会と激励会は盛況でした。

挨拶

宮城信雄 沖縄県医師会会長



本日ここに、上村昭栄先生藍綬褒章受章、野原俊一先生旭日双光章受章祝賀会並びに新・旧琉球大学医学部長・附属病院長激励会を開催いたしましたと

ころ、多数の皆様にご出席頂き、厚くお礼申し上げます。

上村先生、野原先生のご業績は後程詳しくご披露されますが、上村先生は日々の多忙な診療に従事する傍ら、社会福祉法人の理事長として長年にわたり、福祉サービスを必要とされる方の福祉の向上にご尽力されたご功績により、また、野原先生は南部地区医師会役員として長年に亘り、会の発展並びに県民の医療・保健・福祉の向上に尽力されたご功績により、栄誉ある章を受章されております。

本県の医療・保健・福祉の歴史を振り返って見たとき、先生方がこれまで果たしてきた役割はいかに大きなものであったかを改めて認識するものであり、ここに、先生方の永年のご労苦に対し沖縄県医師会を代表して深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

また、皆様ご高承のとおり、琉球大学医学部では、この度、佐藤良也医学部長が退任され、新医学部長に須加原一博先生、また、新病院長には村山貞之先生が就任されております。

本県における琉球大学医学部並びに同附属病院の役割は非常に大きく、医学教育は元より、常に県民に最新の医療を提供し、地域医療の向上にご尽力いただいております。

さらには東南アジアを主とする諸外国との学術交流及び保健・医療協力にも積極的に取り組まれる他、2012年に完成予定の「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」では、最新の機材を導入し、医師や看護師等が基本的な診療技能を効率的に習得できると共に、専門的な手技・手術の練習が行えることが出来、必ず

や本県の医療界発展に貢献されるものと期待しております。

これも偏に、歴代医学部長・同附属病院長をはじめ関係各位のためまぬご努力の賜と深甚なる敬意を表する次第であります。

特に、この度医学部長をご退任されました佐藤先生におかれましては、学生の教育環境の改善を積極的に推し進めると共に、高い倫理性を身につけ、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応しうる医師、保健・医療従事者の育成に努めるべく、医学教育のための特命教授を配置しソフト・ハード両面から教育の充実を図られました。また、医学生地域枠の増員にもご尽力いただき、本県における離島医療を含めた医師不足対策に多大なるご尽力を頂いております。

ここに改めて佐藤先生のこれまでのご労苦に対し、衷心より深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

また、この度、医学部長になられた須加原一博先生におかれましては、平成20年4月から附属病院長の重責を担われると同時に、本年6月までの3年余もの間、沖縄県医師会執行部の一員として本会会務の運営並びに事業の推進はもとより、本会と琉球大学医学部との橋渡し役を担って頂きました。会務では学術担当理事として当会医学会の企画運営にあたられ、本県の学術高揚の発展に大きく貢献されております。

今後は医学部長として強力なリーダーシップを発揮していただけるものとご期待申し上げます。

また、病院長にご就任された村山先生は、これまで本会の代議員、放射線科会長、地域医療委員会委員として幅広いご識見の下に、会務運営にご尽力いただいております。更に、今年の6月からは須加原先生の後任として沖縄県医師会の理事にご就任頂いております。先生には、大学と医師会のパイプ役を担って頂き、県下の医療福祉の向上にご尽力をお願い申し上げる次第であります。

さて、現在我が国では、先の東日本大震災を発端とした原発問題をはじめ、政府の迷走によ

り政治の行方は混沌としており、崩壊の危機に瀕する地域医療の改善も当分の間望めるものではありません。

しかしながら、我々医療に携わる者はいかなる状況にあっても、県民の健康と福祉を守るべく、一丸となって県民医療を推進していかねばなりません。

上村先生、野原先生、佐藤先生、須加原先生、村山先生におかれましては、何とぞ、この崇高な使命の遂行のため、今後も引き続き医師会に対し、ご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、先生方の今後益々のご健勝とご多幸を祈念して私の挨拶とさせていただきます。

業績紹介

安里哲好中部地区医師会会長



上村昭栄先生、藍綬褒章受章おめでとうございます。

野原俊一先生、旭日双光章受章おめでとうございます。

琉球大学副学長にご就任された佐藤先生、医学部部長にご就任された須加原先生、病院長にご就任されました村山先生、誠におめでとうございます。

中部地区医師会を代表しまして、この度上村先生藍綬褒章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は昭和40年に産婦人科を開業以来、多忙な診療の日々の傍ら、昭和63年4月からは沖縄県の要請を受け、経営難に陥っていた沖縄県精神薄弱者育成会より事業を引継ぎ、社会福祉法人緑和会の理事長として、職員の意識改革、経営の再建を図り、当時の100名の利用者の生活の場の確保するために奔走されました。更に、知的障害者の支援に寄与すべく、平成元年度に知的障害者入所更生施設を新たに開設、平成9年度には地域社会との交流の場となる環境作りを

行うべく、地域交流ホームを設置しております。

また、在宅福祉への取り組みとして、短期入所、ホームヘルプ、沖縄県知的障害者発達支援センター等の事業を積極的に推進し、知的障害者のニーズに応えると共に、緊急時の受入先施設としても地域に多大な貢献をしております。

更に、地域生活援助事業のグループホームを開所し、地域社会での生活と就労支援を行っております。

また、上村病院では、46年余もの長きに亘って妊娠、分娩を中心とした母子の健康管理に尽力されておりますが、今日に至るまで実に5万人を超える新生児が上村病院で誕生しております。これまで、3世代にわたって上村病院でお産するご家族もおられると伺っており、いかに上村病院が地域住民から絶大なる信頼を得ているかが伺えます。

更に、上村先生は、妊産婦及び乳児の健康相談、育児相談、栄養相談及び受胎調節の指導等を積極的に行い、母子の健康管理に努めると共に、市内の女子中学生を対象にした、赤ちゃんの抱っこ体験などの母子保健事業への取り組みや、学校での性教育を精力的に実施しております。

更に、現在の日本産婦人科医会の前身である、日本母性保護医協会沖縄県支部長を平成2年から11年間もの永きに亘り務めており、集団検診だった子宮がん・乳がん検診の受診機会の拡大・受診者年齢層の拡大を図るため、個別検診への移行の重要性を訴え、現在では殆どの市町村で実施されるまでになっております。

ご紹介いたしました以外にも、数々のご功績がございますが、時間の都合上、割愛させていただきます。

この度、上村先生のこれまでの長年に亘るご功績が認められ、藍綬褒章受章の栄に浴せております。上村先生は、中部地区医師会の重鎮として、現在でも我々を指導していただいております。健康で、一緒にゴルフをしても我々と同じくらいの距離をとばし、良いスコアを出します。大きな体ですが、ほほ笑んだ時のまなざし、慈愛の笑顔がとても素敵であります。上村先生



のこれまでのご労苦に対し、改めて深甚なる敬意と感謝の意を表すると共に、いつまでもご健勝で活躍されんことを祈念いたしまして、簡単ではございますが業績紹介を終わります。この度の受章、誠におめでとうございます。

名嘉勝男南部地区医師会会長



この度の野原俊一先生、旭日双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和42年7月の開業以来、産婦人科医として日夜多忙な中、昭和51年4月から平成4年3月まで、南部地区医師会の役員として、会長3年、副会長10年、幹事（現在の理事）3年の計16年間務めると共に、平成14年4月から当時の執行部より強い要請を受けて再び理事に就任され、以来、現在にいたるまでの約9年間と併せ25年余もの長き亘り、地域医療、保健、福祉の向上発展並びに南部地区医師会の事業運営の円滑な推進にご尽力されました。

特に、南部地区医師会の社団法人認可取得及び南部地域における保健福祉活動の拠点となる医師会館並びに付帯施設の老人保健施設「東風の里」の創設に尽力し、念願であった医師会館建設に貢献しております。

また沖縄県立知念高等学校の学校医を32年間、与那原町立与那原中学校の学校医を14年間、南城市立玉城中学校の学校医を5年間務められ、児童生徒及び教職員の健康保持増進並びに健康教育等を実践し、学校保健活動に尽力しております。さらに、開業から現在に至るまで与那原町を中心とした南部地域の各種予防接種にも積極的に取組み、予防接種事業の円滑推進と伝染病予防に尽力されております。

また、開業から3年間にわたって、現在の日本産婦人科医会の前身である日本母性保護産婦人科医会沖縄県支部評議員を務められ、母子保

健諸事業の円滑推進に精力を注がれております。

さらに、地域における健康教育等にも積極的に参画し、地域住民の健康保持増進に努められました。特に自治体が実施する各区における健康講話・健康相談には毎年参加し、率先して地域住民の健康管理をするなど、その熱意は住民や自治体からも高く評価されております。

ご紹介いたしました以外にも、数々のご功績がございますが、時間の都合上、割愛させていただきます。

この度、野原先生のこれまでの長年に亘るご功績が認められ、旭日双光章受章の栄に浴されております。野原先生のこれまでのご労苦に対し、改めて深甚なる敬意と感謝の意を表すると共に、いつまでもご健勝で活躍されんことを祈念いたしまして、簡単ではございますが業績紹介を終わります。

野原先生は、現在も南部地区医師会の老健施設「東風の里」施設長を務められるとともに、理事でもあり、お元気で頑張っておられます。今後とも、南部地区医師会の活動にご協力を宜しくお願い申し上げます。この度の受章、誠におめでとうございます。

祝 辞

宮里達也沖縄県福祉保健部長



上村昭栄先生の藍綬褒章受章、野原俊一先生の旭日双光章受章祝賀会及び新・旧琉球大学医学部長・附属病院長激励会合同開催されるにあたり、ごあいさ

つを申し上げます。

上村先生、野原先生この度の栄えある受章、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

これらの章の選定基準として、藍綬褒章は公衆の利益を興し成績著明である者は又は公同の事務に尽力した者、旭日双光章は国家又は公共に対して功労がある方のうち、功績の内容に着



目し、顕著な功績を挙げた方に対して授与されるものとなっております。

上村先生におかれましては、社会福祉法人緑和会の理事長を20年間務め、経営難に陥っていた法人の経営を立て直し、知的障害者に対して閉鎖的だった地域社会とのつながりを構築する等積極的に環境作りを行っており、地域に大きく貢献されました。この度は社会福祉功績として授与されたものであり、その御功績に対し深く敬意を表します。

野原先生におかれましては、産婦人科医として地域に貢献する傍ら、南部地区医師会の役員を24年間務めるなど、地域医療、保健、福祉の向上・発展並びに、医師会の事業、運営の円滑推進に大きく貢献されてきました。この度は保健衛生功勞として授与されたものであり、その御功績に対し深く敬意を表します。

さて、琉球大学の佐藤医学部長が退任されるということでたいへんお疲れ様でした。新しく医学部長に就任されます須加原前病院長、新病院長に就任されます村山教授就任おめでとうございます。これからも沖縄県の医療の為、連携・ご協力を宜しく願います。

沖縄県においては、「安心して暮らせる保健医療の充実」を図るため、健康づくり運動等を推進するとともに、医師等医療従事者を養成確保し、患者・利用者の視点に立った医療の確保や予防対策の推進並びに地域医療の質の向上と切れ目ない医療提供体制の整備に取り組んでおり、今まで以上に県医師会をはじめ関係者の皆様と連携・協力し、総合的な保健医療体制の確立に努めていきたいと考えております。

今後とも一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、栄えある表彰を受けられました上村先生、野原先生及び琉球大学医学部長を退任されます佐藤教授、新しく就任されます須加原前病院長、新病院長に就任されます村山教授のますますのご健勝と御活躍、沖縄県医師会のご発展並びに会場の皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

謝 辞

上村昭栄先生



本日は、私たちの為に盛大なる医師会の祝賀会・激励会を催していただき心から御礼申し上げます。

私の受章の経過を簡単に申し上げますと、福祉保健部長より御祝辞がありましたように、昭和63年、私が61歳のとき、当時の保健部長がわざわざ私の病院にお見えになり、緑和会の今後の経営が非常に困難になっており、手助けが必要であるため、立て直しをお願いしたいとのことでした。内情はダウン児や自閉症等の精神障害児が100名程収容されており、もしだめになると、父兄はもちろんのこと、この子たちが路頭に迷うということになっていました。私が頑張ろうと、開業20年後の61歳のときに引き受けました。

引き受け、内情を調べてみますと、相当な欠陥があり、埋め合わせをしてスタートしたわけですが、最初から恩恵を受ける、給与をもらうといったことは期待しておらず、20年間無償で務め、完全に復旧したあと、重症の精神薄弱児やダウン症を50床ほど増やし、収容したわ





けであります。

現在は、200名受入の他に、50名程の通学可能な精神薄弱児を受け持つ学園を設置しております。現在は完全に持ち直し、恐らく沖縄一の心配のないところまで来ていると思います。父兄からも大変喜ばれております。

そういうことで私は自己満足していたところ、従業員より、藍綬褒章を受章できるようにと東京まで赴きわざわざ直訴しに行ったところ、それが成功したのであります。私は従業員に非常に感謝しております。従業員が盛り上げ、これだけの施設にした従業員の志が実り、このような栄誉ある章を頂くことが出来ました。

まだまだ話は尽きませんが、時間の都合上これくらいに致します。

本日はどうも有難うございました。

野原俊一先生



本日は、皆さんお忙し中を祝賀の宴に預かりまして大変有難うございます。

私の横におられる上村先生は昭和26年に英語

学校の講師をしておられ、私の恩師でございます。恩師のそばで恐縮している次第であります。

先ほど、沖縄県の福祉保健部長宮里先生より大変過分・貴重な祝辞を、南部地区医師会長の名嘉先生には過分な経歴の紹介を頂き、誠に有難うございます。

私は、医師会や地域の自治体が計画して下さった子宮がん検診、予防接種、学校検診に対し、協力させていただいたということで、これが日を重ねて今回の受章になったと思っております。

これも、偏に先生方のご指導・ご支援があったことで、大変光栄に存じ、誠に有難うございます。

また、ただいま名嘉先生からもご紹介がありました。南部地区医師会立の介護老人保健施設「東風の里」において勤務させていただいております。

後期高齢者になっておりますので、健康が許す限り介護保険に携わっていきたく思っておりますので、今後とも先生方のご指導・ご支援をお願い申し上げまして、甚だ簡単ではございますが、本日のお礼のご挨拶にかえさせていただきます。

本日は、誠に有難うございます。



左から、安次嶺先生、上村先生、宮里先生



左から、名嘉先生、野原先生、永山先生、嘉手刈先生



左から、佐藤先生、瀧下先生、須加原先生、名嘉村先生



佐藤良也前医学部長



本日は、私どもの為にこのような会を催していただき、大変有難うございます。

御案内がございましたとおり、この3月末で琉球大学医学部の定年退職と併せまして拝命しておりました医学部長も退任しております。

思い返してみますと、私が沖縄に赴任したのは、医学部の第1期の学生を受け入れた年の4月でした。数えますとちょうど満30年の長きに亘って琉球大学医学部でお世話になったということでもあります。

私が退任いたしまして、文字通り琉球大学医学部の第一世代の教員は姿を消すということになり、現在は医学部の教授の方々は、2・3代目、特に3代目の教授が約半数を占めるぐらいに若返ってきております。

こういった若返った琉球大学が、引続き沖縄の医学教育・医療の為に医師会の先生方と協力しながら更に発展していってくれるものと私自身は大いなる期待をしております。

また、御案内がありましたように、退任する

前の3年間、思いもかけず医学部長を拝命することになり、正直この3年間、私にとっては非常に重く、つらい3年間だったと思っております。

特に、先生方もご存じのとおり、最後の1年間は、論文不正問題でほとんど1年間ネガティブな作業に追いたてられたような状況で、3年間と言いつつも琉球大学の為に何かたことになることをやれたのかなという思いを未だに引きずっております。

そういう中で、私と一緒に就任いたしました須加原前病院長にはいろいろ教えていただき、何とかやってこられたかなと思っておりますし、また、宮城会長をはじめ、医師会の先生方には平成21年度から導入いたしました地域枠の学生の地域医療教育の点では大変ご指導・ご協力を頂き有難うございました。この学生たちが今後沖縄の地域医療をしっかりと担うような医師として育てられるように、引き続き先生方のご指導・ご協力を宜しくお願いしたいと思っております。

最後になりますが、4月からは大学本部で理事・副学長に就任し、引き続き大学に在籍させていただいており、岩政学長をなんとか支えるということで、担当は病院、地域医療という御命令でありますので、もうしばらく先生方にはいろいろとご指導を仰ぎながら私の出来ることをやっていきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

本日は、お忙しい中、このような会を催していただきまして、有難うございます。



左から、大屋先生、村山先生、金城先生、宮城先生



上村先生を祝福する當山護先生



兄 俊一先生を祝福する野原忠先生



須加原一博先生



こういう晴れやかな席で激励会を開催いただき、有難うございます。

上村先生の藍綬褒章受章並びに野原先生の旭日双光章受章、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

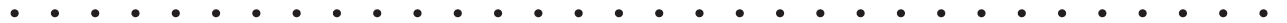
晴れやかな席でこういう激励会をしていただけると、大変光栄でうれしく思っているところです。私が沖縄に赴任いたしましたのは2000年で、ちょうど10年余りが経ったところであります。麻酔科医不足であり、どうやって麻酔科医を育てるかということに力を注いでおりましたが、皆さんの支えで少しは良くなっていると思っております。

病院長在職3年間は、県医師会の理事のメンバーとしていただいき、理事者が非常に県民の健康を第一に考え、熱心に討議されておられるのを見まして、やはり親身になって健康或いは医療を考えることが大事だということで、病院長としても、大学の使命・役割を第一に考え、県医師会との連携を図ってきました。

お陰さまで、県、県医師会の先生方、県立病院、民間病院の先生方の支えで、ある程度のことが出てきているかと思っており、あと1年はゆっくり病院長の席で過ごそうと思っていたところ、うれしそうな顔しているからでしょうか、最も苦勞する席である、医学部長を拝命いたしました。もう少し苦勞をなささいということでしょうか。佐藤先生がだいぶ苦勞されてこられ、立派な大学院講座制や地域枠、教育研究及び地域医療への道筋をきちんと立てられ、尊敬しておりましたところ、私がそれを引き受けることになるとは夢にも思っておりませんで、固辞したのですが、今では佐藤先生の御苦勞を身にしみて感じ、少し元気がなくなっているところであります。

地域枠の学生をいかにキャリアパスを形成して立派な医師にするか、或いは医学部の学生を全国に誇れるような医師養成、教育の改革を少し始めております。若い先生方、新しい考えを持った先生方の意見を取り入れて、できるだけ新しい夢のある医学部にしようと思っております。

これまで以上に、先生方のご支援をいただき、教育研究、生涯教育等の沖縄モデルが全国に示せるように、ご支援をいただければというお願いをもって、お礼の挨拶に致します。



左から、須加原先生、古謝先生、
慶先生ご家族、真栄田先生



左から、山本先生、佐藤先生、
喜屋武先生ご夫妻



左から、瀧下先生、村山先生
宮里部長、高良先生

村山貞之先生



病院長に就任いたしました村山でございます。

このような晴れやかな会にお招きいただき、激励していただけているということで、非常に光栄に思っております。誠に有難うございます。

私は、病院長になって今日で104日目でございます。私は昭和30年生まれで、病院内には諸先輩方がおられる中で、なぜ私かと最初は戸惑ったわけでございますが、須加原病院長の下で、副病院長として支えさせていただきまして、そういったことで御指名を受けたような形と思っております。

須加原先生がやられた事をやっていけばいいのかなと思ひ4月1日を迎えたわけですが、その責任の重さが肩にずっしり来るということが、なってみて初めて分かりました。100日余

りが経ちますが、非常に苦勞して、眠れない日々が続いているところです。

琉大病院と言うと山の上にもまるで伏魔殿のようなイメージがありまして、感じが悪いというご意見も聞くところではありましたが、この5年間、医療福祉支援センターの連携室長をしており、大学はどういうところである、大学病院はどういうふうに見られているということをいろいろ考えていたところでもありますので、今後は一つのキャッチフレーズとして、「県民に愛される大学病院」を目指すということを考えていきたいと思っております。

そのためには、会員の皆様との連携を深め、医師会の理事として、大学病院と県医師会、県内病院の橋渡しの役割を果たし、大学に在籍する医療従事者が大学病院を好きになることが、県民に愛される病院にする一つのステップではないかと考えており、いろんな策を考えていきたいと思っております。

本日は、存じ上げている先生方もたくさんいらっしゃるようで、非常にありがたいと思っている次第です。まだ若輩ではありますが、ご指導・ご鞭撻をいただきましてなんとか琉大病院、沖縄県の医療を盛りたてて行きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



会場風景